



それおもんみれば、人間はただ電光朝露のゆめまぼろしのあいだのたのしみぞかし。たといまた栄華栄耀にふけりて、おもうさまのことなりというとも、それはただ五十年乃至百年のうちのことなり。もしただいまも、無常のかぜきたりてさそいなば、いかなる病苦にあいてむなしくなりなんや。まことに死せんときは、かねてたのみおきつる妻子も、財宝も、わが身にはひとつもあいそうことあるべからず。(「御文 一条第 11 通」) この御文は蓮如上人 59 歳の吉崎時代に書かれたものであるとされる。当時の平均年齢が 56 歳とあることから、すでに人生の無常を身をもって感じ取られていた頃なのであろう。しみじみと思いやられるお言葉である。

現在では 100 年時代と言われ、90 代でも元気に活躍されている方はいくらでもいらっしゃるが、最期がおとずれることに間違いはない。ひたすらに健康を願い、どう生きようとも避けられない運命をいきているのである。

昨年から今年にかけては 80 代、90 代の方々がお亡くなりになられた。それぞれに歩まれた、その人の人生を私の知る限り振り返りながら、この御文をいただいたことである。私もいつしか晩年を生きている。「ただ願うべきは後生」その真実に導かれながら今日も生きているのである。

教如上人と土手組

教如上人…東本願寺開祖

関が原合戦の直前に、教如は関東からの帰り、家康の内通者として西軍の石田勢に森部の光顕寺で襲われました。この難を救ったのが、安八町を中心とする信仰心の篤い農民たちでした。それ以来「土手組(どろてぐみ)」として特別な待遇と名称を与えられたのです。関係する上、下、十九ヶ寺では毎月順番で『十日講』を、また毎年順番で『報徳会』を執行しているのです。その当番寺として今年も光受寺で執行されます。次に掲げる歌は教如上人が石田軍に追い詰められ、光顕寺の須弥壇に身を隠された折に短刀で刻まれた辞世の句です。



上人のお好きであったというお酒もお供えし

「散りやいと森部の里に埋めばや

かげはむがこのままの江の川」

(私は今ここ森部の里にわが身を埋めなければならず無念です。人は死にたくなくても死なねばならず、はかないものです)という意味の歌。

塀がきれいになりました。

御遠忌が終わっておよそ十年。塀の痛みがひどくすいぶん気になっていました。報徳会を間近に控えていることから、一月下旬のお天気の良い日に二日ほどかけて、自分で補修を行いました。



↑こんな感じでした。



塀そのものの痛みがひどく、コンクリートの割れ目から雨がしみこみ、逃げ道のなくなつた水分が塗装を剥がし痛めていたようです。今回のこの作業も一時的なものになるかもしれませんが、とりあえずきれいになったことでほっとしています。(塀の色合わせを、門徒の小川塗装店にお願いしましたが、ほとんど目立たない仕上がりました。)



今月の掲示板

地獄一定と

思ひつゝみれば

地獄極楽用事なし

森ひな



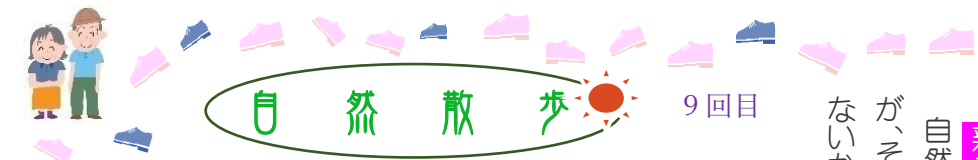
大垣 SAKURA 2月号に掲載されました。

毎年のように新聞、月刊誌などに掲載される光受寺の梅であります。話題になり始めてからもう二十年以上にもなります。当時はまだしだれ梅があまり世間に知られていない存在でしたが、今では梅といえば「しだれ梅」といった感じと各地では愛好者が広がっているようです。歴史もあり、立派な木や、多くの種類や数多くあるところはいくつもあるのですが、光受寺ではこの「飛龍梅」だけが誇れる一本かもしれないですね。

今年には「コロナ」の関係もあり、つりびなや、展示物も縮小して聴風庵のみで行っています。例年のように込み合うこともないと思いますので、ぜひ立ち寄りください。飛龍梅は年々元気がなくなりましたが、中旬までがんばりついでに思っています。

「いずれの行もおよびがたき身なれば」とても地獄は一定すみかぞかしこれは歎異抄に書かれた聖人のお言葉であるが、聴聞に明け暮れた石川の妙好人と言われた森ひなさんが、「この言葉を通して、いただかれた境地である」と考えられる。

地獄一定と決定したら、もう地獄も極楽も負う必要がなくなつたといふことである。他力、他力と思つていたその思いが実は自力であつたと述懐され、自分のはからいが尽き果てたところに親さま(南無阿弥陀仏)に出会えたといふ喜びを表す言葉であるといふ解もある。



新コーナー

十一回連載

樹林

自然は無言で、ありのままの姿を見せてくれています。が、その姿を通して気づかされてくることも多いのではないかと考えられます。

二十四節気による三月五日が啓蟄で、土の中を冬ごもりをしていた蛙や蛇が地表に出てくる時期と言われます。冬至から比べると日中の時間も一時間以上長くなり、日差しも一段とよくなりました。

日だまりには、レンゲやイヌフグリの花が咲き、野の草も一斉に躍動を始めます。庭先のアセビもつぼみが膨らみ、ツバキもつぼつ開花し始めました。軒下に植えあるアカンサス(ハアザミ)も春を待ちきれず、冬の寒さの中で濃い緑色の葉をどんどん伸ばしています。

春は気分一新の季節、生命躍動の季節です。



お知らせ

春期永代経は中止

報徳会(4月15日・木)に向けて

おみがき 4月5日(金) 9時~午前

学習会 3月13日(土) 午後の時半より8時に変更

金曜喫茶 3月19日(金)・3月25日(金)

午後1時半より